

令和5年度 学校評価 中学校結果

令和6年3月末 学校教育課まとめ

No.	学校名	1	2	3						6	4	5	表示以外の 評価分野	
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果						学校関係者評価				
				項目数	No.	分野	重点領域	評価項目・取組内容	達成状況	取組状況改善方策	評価項目	実施方法		総合
1	精道中学校	夢と志を持って、たくましく未来を切り拓く生徒の育成 ○命を大切に、仲間とともに夢に向かって歩み続ける生徒 ○互いを尊重し認め合える生徒 ○生徒が安心して通える朗らかな学校 ○地域から信頼され、応援される学校 ○誠実に生徒と向き合う教師 ○豊かな人間性と常に学び続ける向上心のある教師	(1)命と人権、一人一人の生徒の尊厳を尊重する教育を基盤として、全ての生徒が主体的・意欲的に活動し、ともに関わり合い、支え合い、学び合うことができる教育環境を整備する。 (2)学校の教育活動全体を通して、生徒自身が考え、判断し、主体的に行動できる力を育成する。またそのための研究・研修の機会の充実を図る。 (3)教職員は生徒の学びを支える最大の教育環境であると捉え、教職員がゆとりを持って生徒と向き合う時間を確保するとともに、教職員の資質・指導力・チーム力の向上を図る。 (4)様々な事案を想定した危機管理体制を構築し、職員間の報告・連絡・相談の徹底を図る中で、危機事案の未然防止の取組を強化する。	2	1	ともに関わり合う生徒集団作り	1	○社会や集団のルールを守り、思いやりの心を育てる教育に努める。 ○人権意識を高め、お互いが認め合い励まし合える集団作りの育成に努めている。	B	自尊感情と対人関係スキルを伸ばすことに本校では力を入れてきた。その一環として、すべての生徒を対象に学活の時間の10分程度を利用し、Slimpleプログラムに取り組んだ。ソーシャルスキルを身に付けて、子どもどうしの関わりを深めることで、不登校防止に効果があると考えられ、まだ不登校発生率には影響しないものの、併用しているQUアンケートにより、学級に対する否定的回答が減少する等効果が見られた。	教員による自己評価で肯定的な回答が「社会や集団のルールを守り、思いやりの心を育てる教育」については92%、「人権意識を高め、認め合い励まし合える集団作り」については96%となっており、相当の成果を実感できたと思われる。	生徒・保護者・教職員アンケートを比較し、立場による評価の差を明らかにできた。それとは別に教職員自己評価アンケートを取り、学校評議員会で意見をいただいた。学力分析に関しては、全国学力学習状況調査結果を踏まえた客観性のあるものとすることができた。アンケート結果とその分析を学校だよりに掲載し、透明性のある評価とすることができた。	今年度、学校行事でコロナ後の新たな形態を模索し、生徒、教職員の負担に配慮しながらも、保護者、地域の方に開かれたものとなるよう、教職員が一体となり、工夫を重ねた。また、積極的に学校支援ボランティアと連携し、さまざまな教育活動に参画いただき、学校の考え方を地域に発信する機会にもなっている。課題として、学習指導、生徒指導で、保護者アンケートの肯定的な回答が、生徒、教職員のものを下回る項目があることから、懇談等を通じて日常的な場面で教育活動への理解を進めたい。	勤務時間の適正化等
2	山手中学校	一人ひとりを大事にするという基本方針のもと、伝統である「挨拶のできる学校」「地域に開かれた学校づくり」をめざす。ICTを活用した授業づくりを推進するとともに、主体的に学ぶ姿勢を育てる。	(1)これからの時代に必要とされる生徒を育てる。 (2)学習指導の充実と支援の工夫に努める。 (3)生徒指導の充実を図る。 (4)教職員の資質向上を図る。	2	1	学習指導	2	○学校に子どもたちが相談できる先生がいる。	B	保護者と生徒・教職員の受け止め方に違いがある。62%の生徒は「相談しやすい」と答えているが、38%の生徒は「相談しにくい」と答えている。SNSなど「学校には相談しにくいトラブル」であったり、「先生が忙しそうで話かけにくい雰囲気」であることが考えられる。生徒とかわかる時間を更にどう作り出すかが課題。	学校は生徒の成長に対し様々な努力をしていること、登下校や郊外でも積極的に挨拶ができる生徒が多い。教職員員については、生徒の為に頑張っているのはありがたいが勤務の適正化も進めてほしい。	教職員、生徒、保護者の同じような内容に対して三者の意見の相違や受け止め方の違いを比較した。また、学校評議員の方々には文章表記で具体的な評価をいただいた。総体的には「おおむね良好」な回答であった。	全体的に良いという評価をいただいた。しかし、真面目で一生懸命であるが、少し受け身なのが気になるのご指摘をいただいた。地域社会に愛される学校になるためにも、地域やコミュニティ、小学校との交流を更に深めるような活動を行ってはどうかのご意見をいただいた。	地域との連携
3	潮見中学校	目標「生徒は通いたい、保護者は通わせたい、地域は応援したい、職員にとって働きがいのある学校」 (目指す生徒像) (1)夢や目標に向かってチャレンジする生徒を育てる。 (2)主体的に学習に取り組もうする意欲あふれる生徒を育てる。 (3)生命や人権を尊重し、互いを認め合い、思いやりのある生徒を育てる。 学校は地域の共有財産であるとの認識を持ち、教師のものさしだけではなく、地域・保護者の見方や考え、生徒の視点やさまざまな思いを受けとめながら、信頼関係を構築し、豊かな感性に基づいた学びを実践し、教師力を磨いていく。また、教職員一人一人が学校経営に参画する意識を持つとともに、協働体制を築く。	(1)確かな学力の定着に努める。 (2)豊かな心の育成に努める。 (3)心通い合う生徒指導に努める。 (4)健康で活力ある生徒の育成に努める。 (5)学校と家庭、地域社会との連携に努める。 (6)教職員の資質能力の向上に努める。	3	2	人権教育	2	○互いの人権を尊重して、いじめのない学校風土の醸成に力を入れている。 ○人権意識を高め、お互いが認め合い励まし合える集団作りの育成に努めている。	B	道徳の授業を始めとするすべての教育活動、行事等を通して、生徒に豊かな心と、他者に対する思いやりの心情を育ててきた。一方いじめや不登校の問題は多様化した子ども達や、子どもを取り巻く環境の複雑化が進み、根絶するには至っていない。今後も豊かな心の育成をめざし、より一層充実した人権教育の推進を図る。	潮見中の生徒達はあいさつをしつかりする、何事にも一生懸命な姿を見せてくれるなど清々しい姿をみせてくれている。一方で不登校の多さも気になるので、地域のかみ借りながら改善の方向に進めてもらいたい。またいじめを許さない風土作りを、学校のすべての教育活動で進めてもらいたい。	生徒、保護者、教職員を対象としたアンケートを実施し、集約してグラフ化している。(昨年度から)また、学期に1度、学校評議員会(今年度は学校運営協議会をモデル的に実施)を開催し、学校だよりや全国学力・学習状況調査の結果報告書・学校ブログを元にした資料等を用いて、学校の状況を説明し意見集約している。令和5年5月に新型コロナが5類感染症に引き下げられ、様々な行事が制限が緩和されていく中で、生徒や保護者が学校運営に、どう感じて、何を求めているかを分析して、引き続きより良い学校運営を目指して欲しい。	おおむね良好。新型コロナウイルスの5類感染症移行後、学校行事やオープンスクール等、参観や見学が可能になったが、教員の負担は増えたのではと心配をしている。今年度の夏休みの図書室開放の実現は生徒の居場所作りとなって良かった。今後は地域の人々が学校に来る機会を増やし、学校の事を知ってもらうことに繋げてもらえたらと思う。	学習指導 家庭・地域との連携